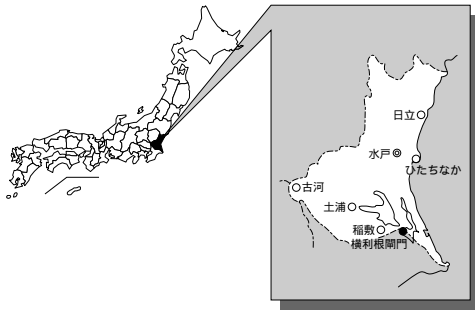


# 土木紀行

## 横利根閘門

90年の歴史を誇り今も  
なお現役の重要文化財  
茨城県稲敷市



### はじめに

横利根閘門は、大正10（1921）年3月に竣工し、今も現役で治水と舟運のために機能している国指定重要文化財です。

また、現在は地域の方々の憩いの場として、さらには地域の観光資源としての役割も担っています。

この横利根閘門は、千葉県の県境に近い茨城県稲敷市西代地先に位置しています。

### 横利根閘門の建設

明治時代の利根川は、明治23（1890）年や明治29（1896）年などたびたび大きな洪水が起きていました。このため、明治33（1900）年から昭和5（1930）年の30年間で「利根川改修工事」を行っ

ています。

横利根川は、国内で2番目に大きい湖・霞ヶ浦から流れ出る常陸利根川と、国内で最大の流域面積がある利根川を南北につなぎ、茨城県と千葉県の県境を流れています。

そして、明治時代の横利根川を含む霞ヶ浦沿岸は、利根川の洪水が逆流することで被害を受けていた地域です。

また、当時の横利根川は、霞ヶ浦や北浦から利根川を經由して江戸へ向かう舟運の重要なルートでもありました。

そこで、「利根川改修工事」の第二期工事によって、利根川の洪水から霞ヶ浦沿岸を守るとともに、利根川の水位が高い時でも舟運を確保するため、横利根閘門が大正3（1914）年8月から大正10（1921）年3月の間で建設されました。

### 横利根閘門の概要

閘門とは、水位の高低差の大きい河川などで、船を通行させるために水位を調整する施設です。

横利根閘門は、水位を調節する時に船の停泊場となる「閘室」と、その両端で門扉を収容する閘頭部からなっており、閘頭部それぞれに大小4枚、計8枚の開き戸式鋼製門扉で水をせき止め、船の交通を確保する「複式閘門複扉式」という形式となっています。

閘室は、有効長300尺（90.9



写真 1 横利根閘門全景（利根川側より望む）

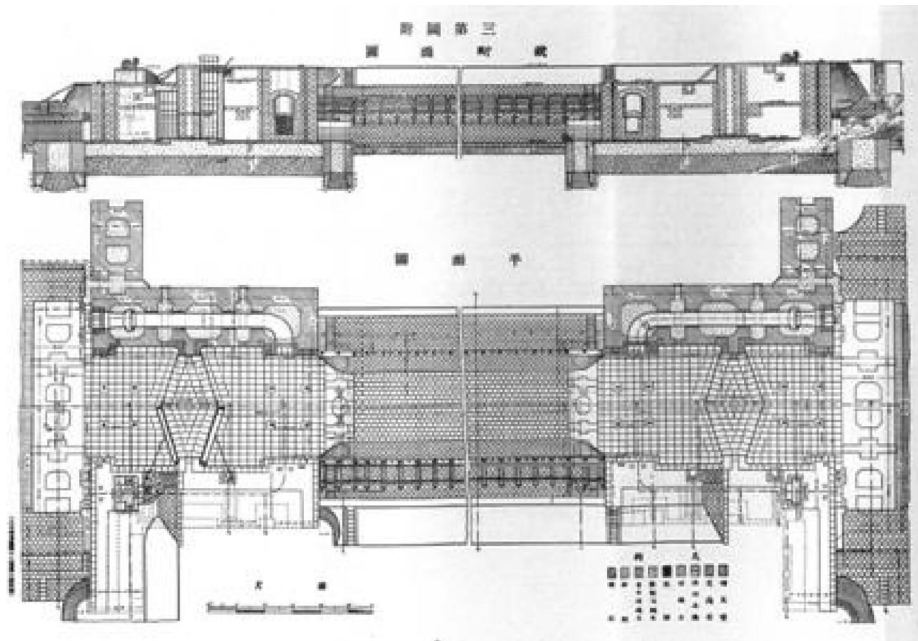


図 1 横利根閘門構造（上：縦断面図，下：平面図，右側が利根川側）

m), 幅員36尺(10.9m), 闕(閘門の深さ)は平均低水位以下約8.6尺(2.6m)で, 前後の閘扉室と中間の閘室との三つに区分されます。

閘扉室の側壁は, 垂直のコンクリート造りで表面は煉瓦および石張り, 基礎は煉瓦壁の中にコンクリート充填したオープンケーソンからなり, 底部はコンクリート造りの石張りとなっています。

また, 閘室の両岸は1割法のコンクリート張りでその斜面には木造緩衝材を設け, 底部は厚さ2.4尺(0.7m)の割栗および砂利を敷き, その上に厚さ1.6尺(0.5m)のコンクリート塊を張ってあります。

そして, 横利根閘門は約280万個もの煉瓦が使われた国内最大級の煉瓦造閘門です。

### 平成の大改築と重要文化財指定

横利根閘門には, 完成してから昭和10(1935)年頃までは年間5万隻にも及ぶ船が通行していたと伝えられていますが, 舟運が衰退した近年でも漁船や釣舟, モーターボートなど年間1,000隻以上の船が利用しています。

このため, 大正10(1921)年の完成から70年以上経った平成6(1994)年に, 「平成の大改築」とも呼べる改築を行いました。

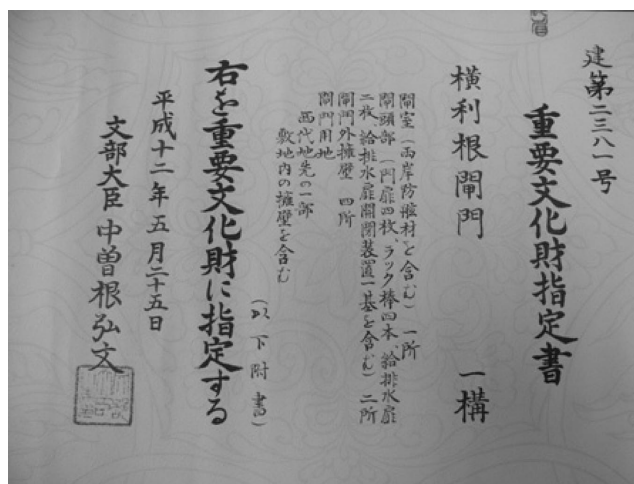


写真 2 重要文化財指定書

これまでも部分的な補修は行ってきましたが、鋼鉄でできた門扉は全体的に錆びによる腐食が進行していたため、改築が必要な状態でした。

そこで、改築は土木遺産としての価値に配慮しながら、人力で行っていた門扉の開閉について省力化を図ることとしました。

まず、門扉は腐食した部分を切り取り、新しい鉄板を使って建設当時の設計図面どおり復元しました。現代では溶接で行う鉄板どうしの継ぎ合わせも、建設当時と同じリベット接合を用いています。

また、門扉を動かすための歯車などはそのまま利用しながら修復が行われています。

そして、人力で行っていた門扉の開閉は電動に変わり、船からのスイッチ操作で行えるようになっていきます。

この平成の大改築の後、平成12年に前述の国指定重要文化財へ指定されました。

これは、横利根閘門が改築を経て、

- ・「利根川改修工事」における代表的土木構造物の一つであること
- ・設計および施工の水準が高く、国内で最大級の規模を持つ煉瓦造、両端を内開きと外開きの二重の門扉とした複閘式閘門であること

から、土木技術史上、煉瓦造閘門の一つの到達点を示す遺構として評価されたものです。



写真 3 観光の一役を担う横利根閘門（大型船の通行）

## 観光資源としての横利根閘門

現在の横利根閘門周辺は、利根川の歴史と自然が会う「横利根閘門ふれあい公園」として整備され、茨城県稲敷市と千葉県香取市の共同で管理されています。

この公園は、昔からの樹木を保存・活用しながら、横利根閘門にあわせて大正期に見られた西洋風のイメージを基調とした庭園や、水辺広場、ピクニック広場、展望広場が配置され、市民の憩いの場としてはもちろん、観光に訪れても楽しい場所となっています。

また、利根川の舟運を活かし地域を活性化させるために、利根川下流域の19市町村で組織された「利根川舟運・地域づくり協議会」が、「地方の元気再生事業」によって横利根閘門を大型船で通過する体験を開催し好評でした。

さらに、関東三大山車祭りで有名な今年の「佐原の大祭」でも、『40年のとき経て復活！土浦から佐原 水郷航路 佐原夏の大祭』として大型船が運行し、閘門を通過する時には大型船から乗客の歓声があがりました。

このように、現在の横利根閘門は地域の観光資源としても重要な役割を担っています。

## おわりに

横利根閘門は、これからも霞ヶ浦周辺を利根川の洪水から守る治水的役割と、利根川と霞ヶ浦を結ぶ水上交通の要としての役割を果たしていかなければなりません。

横利根閘門の管理をしている国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所では、この機能と役割を保全しながら、貴重な土木遺産を将来に伝えるための維持管理に取り組んでまいります。